



杉谷ひろば

杉谷さんとともにまちを創る会
2013年 3月 2日発行
向日市寺戸町辰巳4-1-101号
杉谷ひろば(連絡先は頁下)

市民参加でまちを変えよう！ ホームページ：<http://sugi.pupu.jp/>

向日市議会 予算審議始まる



杉谷伸夫・58才
向日市議会議員・市民クラブ
上植野町イトーピア在住

安倍政権になり、またぞろ公共工事へのばらまきが復活しました。カンフル剤で仕事は増えても一時的なもの。莫大な借金だけが残ります。「円安」で輸出企業は潤っても庶民には回ってこず、値上げが目白押しです。物価が上がっても賃金が上がる見通しはなく、私たちの生活はどうなるでしょう。これが「アベノミクス」の正体です。

日本が元気が無いのは、国が借金をして大企業のために金をばらまいても、庶民にはおこぼれすら回らず、大多数の庶民はビンボーになる一方、国の借金返済のため、庶民向けの財政支出を減らし、ますます庶民が苦しくなるという悪循環を繰り返してきたからです。

「政治を変えよう！」—この期待を民主党は裏切りましたが、国民は昔の自民党型政治の復活を望んではいません。

向日市でも4月以降の新年度予算を審議する議会が始まりました。

政治を変えるのは、私たちの足下からです。市民の声で市政を動かすために、頑張ります。皆さんの声をお寄せください。議会審議も是非一度見に来てください。(杉谷伸夫)

市民の皆さんの声

市民参加でまちをつくる会他より

- 向日町郵便局の前のバス停に以前あったベンチが無くなりました。私は足の悪いので、ちょっと休めて助かっていたので、とても残念です。
- 「杉谷ひろば」の先月号に「物集女街道の拡幅整備事業が始まる」という見出しの記事があったが、まもなく工事が始まるかのような誤解を与える。表現に注意してください。
※確かに誤解を与える表現でした。4月以降、調査・用地交渉で、工事開始は2014年度以降、完了予定が2018年3月となります。
- 議会の議場を議員が見えるようにほしい。傍聴に行っても、役人の姿しか見えません。

3月議会開会中。杉谷議員の質問は3/7(木)見込み

杉谷ひろばの催し案内

場所：杉谷ひろば(向陽幼稚園斜め向かい)

■3月9日(土) 10~12時

市民参加でまちをつくる会

『向日市の新年度予算案をチェック!』

報告後、自由に質疑意見交換(資料代100円)

■3月15日(金) 19~21時

3月24日(日) 10~12時

杉谷議員と語ろう会「議会、まちづくり、その他」

杉谷伸夫の議会報告会

■4月13日(土) 10~12時

■向日市民会館・第2会議室

連絡先

気軽にいつでも連絡下さい TEL 090-8384-5984(携帯) FAX 075-932-1325
メール peace@fa2.so-net.ne.jp ホームページ <http://sugi.pupu.jp/>



新年度予算案

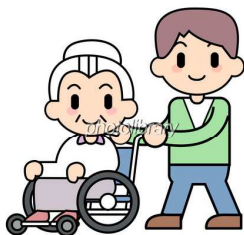
私たちの声は 反映されているか？

2月26日から向日市議会の定例会が始まりました。4月以降の新年度の予算を審議するのが主な仕事です。予算案の中から一部を紹介します。

※ホームページからダウンロードできます。

□ 待望のものが実現へむかうもの

- J R 向日町駅のエレベーターが来年3月完成
※橋上駅の場合の市民負担＝数十億円が1億2千万円で済みます。
- 中学校に続き第2, 第3, 第5, 第6の4つの小学校にエアコンを整備
- 市民体育館向いに私立レイモンド保育園が4月開園。向日市の保育所定員が60人増え1050人になります。今後指摘されていた保護者の改善要望が反映されることを望みます。
- 全中学校の耐震補強が完了見込み。小学校は平成26年度に全て完了の予定
- 原発に依存せず、環境配慮のまちにむけ、照



- 明や古い空調設備を節電タイプに改修・整備
・街路, 道路, 公園照明, 公共施設照明のLED化
・老朽化した公共施設の空調設備の改修, 整備
- 災害避難拠点施設を市内3カ所設置し、防災資機材等を整備。平時は市民の憩いの場に活用
- J R の地下道浸水災害防止対策
雨水流入経路変更、排水ポンプの増強、浸水時の警告・通報システムの設置
- 西向日駅の送迎車両の停車スペースの確保等、駅周辺の道路整備の調査に着手

× 求めてきたのに、取り上げられてないもの、廃止提案のもの

- 公立保育所の耐震補強はまだ計画されていません。第2保育所の建て替え計画も未定
- 「市内巡回バス」については、検討委員会が1年ずれこみ、まだ審議中
- 万一の大飯原発事故に対する防災対策は無し。国の指示待ちで何も進んでいません。
- 今年も給食食材の放射能測定は計画無し（長岡京市では昨年9月から実施し、保育所給食で汚染食材を検出）。昨秋始まった京都府の給食のモニタリング事業は継続するかどうか不明
- 中学校給食実施の要望は検討されていません
- 市民活動センター、女性センターも検討無し
- イオンモール開業に伴う中心市街地活性化策は特に提案されていません

シリーズ

議会を変える！③

「インターネット公開が 議会を変える！」

4年前、向日市議会のインターネット公開を求める請願が採択されましたが、検討が進められていませんでした。昨秋、私の要求により議会活性化特別委員会で議題に上がり、実現にむけて課題を検討していくことになっています。

ネット公開することに対して出された慎重意見は、簡単に言うと、「インターネットで公開するには、今の議会審議は恥ずかしい。議会改革

を進めてから行おう」というもの。率直な意見です。しかし順序が逆です。インターネットで公開して、すべての市民、いや全世界の人々から見られチェックされる、そのような状況に置いてこそ、本気で議会改革をしなければならない必要性に迫られるのです。「議会改革をしてからやろう」では、いつまでたっても「まだ無理だ」となることは目に見えています。

現在の議会活性化特別委員会の任期は、あと半年。この夏以降は新しい体制になるため、本格的な議論はそれからになります。それまで、議会基本条例と議会改革に取り組むべき課題を出し合い、整理することになっています。私は、議会のインターネット公開、市民に見える議会づくりを訴え、いくつかの改革課題の提案を行っていきます（次号以降で報告）。

(杉谷 伸夫)

杉谷伸夫の主張

向日市への提案

～議会的一般質問予定

1. 原発災害から市民を守る 具体的な施策を

昨年12月議会で、私は次の質問をしました。

- ①大飯原発が稼働している現状では、最大規模の事故を想定して対応する必要があるのでは？
- ②大事故が起きれば、向日市も避難地域になる可能性がある。向日市民を守る対策は？

これに対し、市長は「想定を超えるような事態が起きても、そうした事態に備えて的確に対応できるような準備をしていく必要がある」と答弁しましたが、すべて国や京都府の指示待ちで、結局対策はされていません。「大事故なんか起こらないだろう」と甘く見ているのではないのでしょうか。

そこで向日市は、今何をなすべきかを問います。

1. 大飯原発は、直下に活断層がある危険が指摘され、新しい安全基準を満たさないうまま稼働しています。深刻な事故の可能性に備える必要性・重大性について、市長の認識は？



2. 国の指針や京都府の計画を待たずとも、やらなければならないことがあるのではないかと？

- ①今原発事故が起こったら、向日市はどのように判断し行動するかの行動指針を直ちに作ること。
- ②次に、原発災害に備えた向日市の体制をつくること。
- ③国の原子力災害対策指針案では、1時間500マイクロシーベルトという猛烈な放射線量にならなければ避難指示を出しません。市民を守る市町村の立場からの避難・防災計画づくりを行うこと。

3. 住民の生命を危険にさらし、自治体そのものの存在すら亡くなる危険を冒してまで原発の運転を続けるのか。大飯原発の停止、全原発の廃炉を求めることが第一ではないかと？

2. 市民の知る権利について ～北野台裁判の情報を知らせよ！

北野台裁判は、市民の税金を取り戻す裁判です。行政は訴訟に関する文書は公開できないとの立場ですが、この裁判に関する訴状その他を市民は知る権利があると考えます。情報公開できないとする具体的根拠を問います。

北野台の雨水貯留槽の漏水事故対策にともない発生した追加工事により、向日市は約1億5千万円の財政支出を強いられました。民間事業者がつくった施設の不備によって生じた多額の損害を市民の税金で穴埋めするようなことは許されないと、向日市議会で2度にわたり決議が採択されました。そして一昨年7月に、この雨水貯留槽の漏水は、開発事業者らの不良工事によるものであるとして、向日市が開発事業者らを相手に損害賠償を求め、京都地裁に提訴しました。

以降一年半たちますが、裁判の状況がどうなっているのか議会にはほとんど伝わっていません。

そこで私は、裁判での向日市と相手側事業者双方の主張を正確に知ろうと、裁判に関する資料の情報公開請求をしました。が、「裁判中なので見せられない」「公開すべきか判断できない」と、回答期限を1ヶ月延長されました。

1. 公文書は公開することが大原則です。公開できない具体的根拠を示してください。
2. この裁判は、市民の被った約1億5千万円の損害を取り戻す裁判です。この1億5千万円があれば、市内巡回バスは楽々走らせることができただけです。行政としての説明責任は？
3. 前田地下道の公共下水道工事で、市民の税金2億円の損失の責任がうやむやになってしまいました。もし本件で情報公開を拒否するならば、市民には大いなる不信が募るでしょう。市長の言う「積極的な情報公開」とは？

杉谷伸夫の一般質問

3月7日(木)午前11時前頃から1時間(見込)

※誰でも自由に傍聴できます。出入り自由
市役所本館と別館の間の2階の『議場』

議会の日程 (すべて午前10時から)

3/7(木), 8(金), 11(月) 各議員の一般質問

3/13(水) 厚生文教常任委員会

3/14(木) 建設環境常任委員会

3/18(月) 総務常任委員会…杉谷議員の所管

3/22(金) 最終本会議



『水神』ははきぎほうせい (帚木蓬生)

政治家に読ませたい書

今通勤の車中にて、帚木蓬生さんの「水神」という本を読んでいます。天草の乱の数十年後頃を設定した話で、舞台は九州の筑後川流域です。すぐ近くを筑後川が流れているのにもかかわらず、台地に住む農民の土地には川の水が流れていかず、そのため「打桶」という役が、村の2人に任せられます。ほぼ一年中、夜明けから日没まで筑後川に桶を投げ入れ、水をすくい上

げて田畑に続く溝に流し込む仕事です。ところがそんな水は、乾いた大地がすぐに吸い込んでしまい、村々は常に水不足で作物が育たず、農民たちは苦しい生活を強いられています。

そんな中で5人の庄屋たちが、筑後川をせき止め、村に水を流すための大工事を考えるという内容です。その頃の農民の貧しいながら一生懸命生きていく姿や、農民のことを考え行動する5人の庄屋の姿に感動しました。生活が苦しい人たちが増えていく現在、政治家や公の仕事をしている人たちが、本来あるべき姿を見ました。公の金を如何に使うのか、今の政治家たちに是非読んでほしいと思った一冊です。(潤沢)

新 シリーズ・原発事故 ②

矛盾だらけの避難計画 原発近隣6市を訪問調査

原発事故に備えた地域防災計画が現在、原発より30キロ圏内の自治体で作成中です。2月1日には、京都府が高浜原発30キロ圏の住民約13万人の避難先を公表しました。そこで先日、京都府下の8つの対象市町のうち6市と京都府を手分けして訪問し現状を調査してきました。

「国の避難基準が余りに高すぎないか」の指摘に、どこも「我々には判断できない。国の基準に従うしかない」と住民への放射能被

曝の危険の判断を回避しています。福島から京都に避難している若い母親が「私は23マイクロヘルムで避難してきました。500マイクロヘルムも浴びないと避難させないなんて！」と迫ると、言葉はありませんでした。



綾部市は市域の半分が原発から30キロ圏です。事故が起きれば、原発30キロ圏内の住民は市内の30キロ圏外の地域に避難させる計画です。30キロで線を引き、こっちからあっちへ行って、大丈夫なはずがありません。もし大飯原発が事故したら、また多くの人々が被曝してしまうのではと心配です。(佐藤)

連載 ポイント解説 向日市の歴史

鈴木 健弘

第18回 長岡(9)

なぜ飛鳥時代と長岡京なのか。新しい都が仏教の力とは別の施策を模索して、何か従来の平城京とは違う方向に進められてきた史実、市民も為政者も新しい環境づくりをめざす、やや似た傾向を感じる。その中心に浮上するのがこの『聖徳太子(574~622)』である。

飛鳥時代を代表する若きプリンスは日本史上の極めて高き名である。数々の行政は勿論、文化、宗教、その他市民生活に直結する多くのものを、為政者としての手腕を振るいながら、ともかくにも飛鳥一世紀の中で、力強い活躍を

したことは事実であろう。縄文・弥生時代から粛々と培われてきた『大和民族』の底力のようなものが、ふつふつと湧き出ると同時に、中国等の先進国の数え切れない位の広範囲の文化が雪崩のごとく流入する、柔軟な大和民族の多くが、これをスポンジの様に吸い取って来たことと考えるのは前述の通り。

このように太子の頭に国としての自覚、首都としての思慮、それらのノウハウは、中国の情報如何に重要であったか疑う余地はない。ただ想像以上のスケールの大きい行政の施行記録から考えて、何もかも太子の声掛かりで実施されたとみる為政者の姿は、私には少なからず重荷が懸かり過ぎている感がある。一人の人間が出来ることには限度がある。思うにやはり多くの人間が知恵を集めてより良い国造りを目指し、いつも存在した多くの働き蜂を褒めてやりたい。今の国政も何ら変わるところは無い。ただそれらが表に出ることも無く、大方は太子の名のもとに進行していたのであろう。裏方の数々の汗と努力の真実が大方遺されていないのは何とも慚愧と言わざるをえない。